

radii-polynomial approach における 無限次元ガウスの消去法

関根研究室 2131701 齋藤 悠希

背景と目的

既存の radii-polynomial approach は,
有限次元の非線形方程式の精度保証付き数値計算に利用できる.



近似解での保証が可能だが, 真の解ではない.



定理を無限次元に拡張し,
真の解での精度保証を可能にする.

radii-polynomial approach

- X, Y を Banach 空間
- $\mathcal{L}(X, Y)$ を X から Y への有界線形作用素の集合
- 有界線形作用素 $A^\dagger \in \mathcal{L}(X, Y), A \in \mathcal{L}(Y, X)$
- 作用素 $F : X \rightarrow Y$ が C^1 -Fréchet 微分可能とする.

radii-polynomial approach

$\tilde{x} \in X$ に対して, 正定数 Y_0, Z_0, Z_1 および非減少関数 $Z_2(r)(r > 0)$ が存在して, 次に不等式を満たすとする.

$$\|AF(\tilde{x})\|_X \leq Y_0$$

$$\|I - AA^\dagger\|_{\mathcal{L}(X)} \leq Z_0$$

$$\|A(DF(\tilde{x}) - A^\dagger)\|_{\mathcal{L}(X)} \leq Z_1$$

$$\|A(DF(b) - DF(\tilde{x}))\|_{\mathcal{L}(X)} \leq Z_2(r)$$

$$\forall b \in \overline{B(\tilde{x}, r)}$$

radii-polynomial approach

このとき, radii polynomial を以下で定義する.

$$p(r) := Z_2(r)r^2 - (1 - Z_1 - Z_0)r + Y_0$$

これに対し, $p(r_0) < 0$ となる $r_0 > 0$ が存在するならば, $F(\tilde{x}) = 0$ を満たす解 \tilde{x} が $b \in \overline{B(\tilde{x}, r)}$ 内に一意に存在する.

提案手法

Y_0 の評価式 $\|AF(\tilde{x})\|_X \leq Y_0$ に対して, ガウスの無限次元消去法を適用する. Π_N は射影作用素とする.

$$A = DF^{-1}, \phi := DF^{-1}F(\tilde{x})$$

$$DF\phi = F(\tilde{x})$$

$$\begin{cases} \Pi_N DF(\Pi_N \phi + (I - \Pi_N)\phi) &= \Pi_N F(\tilde{x}) \\ (I - \Pi_N)DF(\Pi_N \phi + (I - \Pi_N)\phi) &= (I - \Pi_N)F(\tilde{x}) \end{cases}$$

今後の課題

- ガウスの消去法を用いた Y_0 の展開
- Julia を用いた，プログラムの実証